

《図書コンシェルジュ》

「図書コンシェルジュ」は、毎月、図書館職員がおすすめの本を紹介するコーナーです。各務原市図書館が所蔵する《絵本》、《児童書》、《一般書》から1冊ずつ紹介しますので、ぜひ皆さんも読んでみてください！

『ちいさなきいろいかさ』

シナリオ／もり ひさし イラスト／にしまき かやこ
出版社／金の星社



なっちゃんが、お母さんに買ってもらった小さな黄色いかさを持って、ひとりでおさんぽに出かけます。途中で雨が降ってきて、かさをさして歩いていると、次々にいろんな動物に出会います。うさぎさん、りすくん、胴長のだっくすくん、ばくの親子に、背高のつぽのきりんさん…。小さなかさに、みんな入ることができるでしょうか。出版されて50年近く経つ、長きにわたって愛されている絵本です。かわいらしく親しみやすい絵と、詩のようなテンポよい文章で、家庭やおはなし会での読み聞かせだけでなく、子どものひとり読みにもおすすめの絵本です。



『十年屋 時の魔法はいかがでしょう?』

作／廣嶋 玲子 絵／佐竹 美保
出版社／静山社



大切にしていたぬいぐるみや写真、捨てられない物や捨てたくない物、忘れてくても忘れられない大切なことをどこかで保管してくれればいいのに…そんな時、不思議な1枚のカードが「十年屋」へと導いてくれます。

銀縁メガネの魔法使いと執事猫のカラシが時間魔法で思い出と一緒に十年預かってくれますが、対価はお金ではなく1年分の時間…時の流れが何を意味するかを考える6つお話の短編集です。

「銭天堂」「もののけ屋」シリーズの作者がおくる、心あたたまる物語です。



『あん』

著者／ドリアン助川 出版社／ポプラ社



「どら春」の店主千太郎のもとをひとりのおばあさんの徳江が店を手伝わせてほしいと訪ねてきます。千太郎は徳江の炊いた極上の粒あんなら店も繁盛するかもしれないと受け入れ、徳江にならい自分の味を作ろうと奮闘していきます。店の評判はよくなっていきますがハンセン病患者だった徳江の過去が広まり、客足が途絶えてしまいます。

生きる意味を問うために始めたお菓子作りが今は千太郎を励ましている徳江。納得のいく味に辿り着こうとするうち徳江を母親のように慕うことで過去から逃げてきた弱い自分と向き合う千太郎。

辛い現実でも生きていくことで自分を認め、相手をも包むやさしさが確かな強さとしてこの作品にはにじみでています。

各務原市立中央図書館

那加門前町 3-1-3 TEL: 058-383-1122 FAX: 058-371-1145

Mail: library@city.kakamigahara.gifu.jp

川島ほんの家

川島松倉町 1951-4 TEL: 0586-89-5610 FAX: 0586-89-2884

もりの本やさん・森の交流館

鵜沼字石山 6529-2 TEL: 058-370-7175

中央ライフデザインセンター図書室

蘇原中央町 2-1-8 TEL: 058-383-2125

